Philippins

エドナ・マルシル「ミチ」マルティネス教授・スピーチ原稿

公開講演会「アマチュアオーケストラの国際貢献」〈2024 年 8 月 4 日・東京〉

おはようございます。今日ここに来ることができ、嬉しく思っております。故郷に帰ってきたような気持ちです。

私たちのオーケストラが成長しさらに発展するためには、私たちと同じようなアマチュアオーケストラや他の演奏グループと協力し、学び続ける姿勢が常に重要だと考えています。私たちの活動を意義あるものにするためには、志を同じくするみなさまから学び、音楽の演奏と文化交流においてその恩恵が単なる音楽の喜びを超えて広がることが大切だと思っています。

これらの価値観は、私たちが（公社）日本アマチュアオーケストラ連盟（以下、JAO）、および認定 NPO 法人 世界アマチュアオーケストラ連盟（以下、NPO-WFAO）と共有させていただいており、地域に根ざしたアマチュアオーケストラを持続させるために大変有効な「強力なアジアのモデル」だと考えています。

私たちのオーケストラが JAO や NPO-WFAO と初めて出会ったのは、2011 年に福岡で開催された JAO フェスティバルでした。私と当時 4 人の学生弦楽奏者にとって、非常に印象的で刺激的な体験でした。3 つのオーケストラが奏でる大規模なアマチュアオーケストラフェスティバルに参加したことは、大きな興奮と挑戦をもたらしました。それは、他の演奏者と競い合うという意味ではなく、「各自が自分の能力を最大限に発揮し、美しい音楽作りを経験し貢献する」ということでした。

この出会いの後、静岡でのフェスティバルや、トヨタ青少年オーケストラキャンプ（以下、TYOC）での交流を通じて、JAO および NPO-WFAO とのさらに実りある交流が続きました。今年で 40 周年を迎える TYOC に、コロナのロックダウン前から数シーズンにわたり UP Arco の学生メンバーが参加させていただいていることに、幸運を感じています。

これらの出会いにおける文化交流と JAO および NPO-WFAO との音楽的な協力を通じて、私たちは両連盟が参加者に育んだもの、そしてそれに続く各アマチュアオーケストラの「コミュニティ」の在り方について学びを深めました。両連盟の存在意義はコンサートを開催するためのものではありません。むしろ、JAO はメンバーが地域社会との繋がりを大切にし、それぞれのコミュニティへどのように貢献できるのかという視点を持って考え、実施することが地域社会に良い影響を与えることだと考えています。あまり都市化されていない地域でのオーケストラは、コミュニティのメンバーとの関係構築スキルが優れており、コミュニティ内でどのように強い絆を築き、どのように良い影響を与えるかを、アウトリーチプログラムなどを通して重要視していることを理解しました。これは、彼らが個人の目標だけでなく、連盟の目標をも達成するために、コミュニティに所属する必要があったためです。

オーケストラの支援は、アマチュア音楽家と彼らが属するコミュニティのメンバーが協力し合う形で行われており、共に時間と労力をかけて文化や芸術の普及に惜しみなく貢献しています。日本のアマチュアオーケストラがどのように地域に根ざしているのか、たとえば、定期演奏会やチャリティーコンサートを通じて、自分たちの音楽をより身近に感じさせ、より多くの方々と分かち合うことが大切だと理解しました。

この強いコミュニティ意識こそが、日本のみなさんの考え方や互いの存在を結びつける鍵であると私は信じています。日本の歴史における社会的、政治的、そして経済的な出来事を経験した後、ひとつのコミュニティとして物事を成し遂げるという考え方が変革のための共有文化としてみなさんの中に根付いています。「互いに影響を与え合い、それによってお互いの生活に変化をもたらすために共に行動する」という考え方は、オーケストラの演奏自体にも見られます。

JAO にとってオーケストラは単なる音楽作り以上に、アマチュア奏者が一体感を楽しむ手段だと考えています。ソリストではなく、コミュニティという文脈の中で、心、身体、魂を成長させ、発展させるために意義深いことだと思います。

このようにして、JAO と NPO-WFAO はコミュニティだけでなく、世界中の国々や文化社会にも影響を与えてきました。フィリピンは、私たちの弦楽オーケストラである UP Arco を通じて非常に友好的で励みになる雰囲気の中で、オーケストラ音楽の学習と演奏に関する豊富な知見・経験をみなさんから得ることができました。

JAO フェスティバルや TYOC への参加は、音楽の訓練と技術を活かして人生の中で意味のある音楽の理解を深めるという私たちの使命を強化しました。また、物質的には恵まれていないものの、コミュニティの絆や共同体験に富んだ人々を支援するための意義ある活動を見出すことにもつながりました。音楽を創り出すことは、彼らを支援する最良の手段の一つであると私たちは確信しています。

この意味において、音楽は私たちの人々の間で均等化の役割を果たしてきました。オーケストラのような音楽活動に参加することで、１人または２人以上の参加が可能になり、相互依存と共有の社会的責任が育まれます。社会のメンバーひとりひとりが貢献活動をすることによって、国全体も非常によくなっているという意義深いことが、オーケストラ活動を通して実現していると思います。

《フィリピンでの今後の活動について》

UP Arco は創立 25 周年を迎え、音楽がもたらすポジティブな影響を広めていくことを楽しみにしています。私自身を含め、UP Arco の多くのメンバーが小さな子供の弦楽アンサンブルや弦楽オーケストラで訓練を受け、その後、私たちが通った学校や大学のアマチュアオーケストラに参加してきました。

今年、UP Arco の現役メンバーと TYOC や JAO フェスティバルの卒業生を含む一部の卒業生が集まり、25 周年を記念して大学内で小さな子供のオーケストラを立ち上げることにしました。私たちは、アンサンブル音楽に興味を持ち、やがて音楽を共に奏でる喜びと規律に魅了される子供たちから始めたいと考えています。彼らが将来、国の未来を担う影響力のある人物となるように、私たちは準備していきます。

私たちは、JAO や NPO-WFAO が日本全国の何百ものコミュニティと共にアマチュアオーケストラを支え続けた長年の献身的かつ情熱的な努力によって日本が得たものと同じような成果を目指しています。

この場をお借りして、私の学びを共有できる機会に感謝いたします。アマチュアオーケストラの演奏活動がもたらす素晴らしさを、共に広めていきましょう。

Profile

NPO-WFAO 特別ゲスト

エドナ・マルシル「ミチ」マルティネス 教授

Prof. EDNA MARCIL “Michi” MARTINEZ

エドナ・マルシル「ミチ」マルティネス教授は、フィリピン大学音楽学部を卒業後、ヴィオラの教員資格、音楽文学の学士号、および音楽学の修士号を取得し、フィリピン大学ディリマン校の三大学（美術学部、文学･芸術学部、社会科学学部）による博士課程プログラムにて､フィリピン研究（フィリピンの芸術と文化）で博士号を取得。フィリピン大学で初めてのヴィオラ卒業生としても知られている。フィリピン大学音楽学部の弦楽器と室内楽学科の元学科長を務めた。

幼少期に母親からピアノを学び、7 歳でビセンテ・サレス教授とプリミティボ・マルセロ氏からヴァイオリンを師事。その後、ヴィオラに転向し、フィリピン大学音楽学部のセルソ・エストレヤ教授とリザル・レイエス教授から指導を受けた。

1987 年と 1989 年の夏には、著名なオーストラリアのビオリスト兼室内楽奏者のウィニフレッド・デュリエの指導を受けた他、ヴィオラ奏者のノーバート・ブルームやバイオリニストのクリストフ･ポッペン、カルメンシタ･ロザダといった国際的に有名なアーティストのマスタークラスにも参加。1985 年にフィリピン大学音楽学部の同僚と共にアテネウム弦楽四重奏団を結成し、現在も活動を続けている。

「パサクヌガン・フィリピン」のヴィオラ奏者としてオーケストラでの経験を積み、フィリピン青年オーケストラ、メトロマニラ交響楽団、マニラ室内管弦楽団でセルジオ・エスミラ教授やレガラード・ホセ・シニア教授の指揮の元で活動。フィリピン・フィルハーモニック管弦楽団やマニラ・フィルハーモニック管弦楽団の国際公演にも参加。

世界的に評価されているフィリピン大学音楽学部元学部長であり、フィリピン大学コンサートコーラスのディレクターを務めたレイナルド・パギオ教授をオーケストラ指揮者の最初の師として仰ぎ、2007 年には国際的に著名な指揮者・故ヘレン・クアック氏や米国ニューヨークのバード大学指揮者協会で、ハロルド・ファーバーマンとエドゥアルド・ナヴェガらから指導を受けた。

1998 年、U.P. アルコ・フィリピン大学弦楽合奏団（当時は UP 弦楽合奏団）を設立。創設以来、国内外でのコンサートや国際音楽祭やコンクールでフィリピンを代表し、弦楽オーケストラ部門での受賞に導いている。